

discover a whole new world

vol.2

枚方市立中宮中学校英語科通信

17 October 2017

中学1年生の皆さん、中宮中学校での英語の勉強はどうですか？小学校の頃に比べると、英語を書く量が増えて、スペルを覚えるのに苦しんでいると聞いています。

さて、英語科通信の第2号は、“Can-Do リスト”を公開します。Can-Do リストとは、中宮中学校で3年間英語の学習をするとどういことができるようになるかという目標を「～することができる」という形で表したものです。

今、日本の英語教育は大きく変換されようとしています。

まず、「なぜ英語を学ぶのか。」という根幹の部分が変化しています。先生たちが中学校で英語を学んでいた頃は、「教科書」の英語を日本語にしたり、文法を習ったりということが中心でした。習った英語を教室の外で使う機会はほとんどありませんでした。

今は、どうでしょうか？皆さんの中には、英語は必要ない。と思っている人がまだ多くいるかもしれません。英語は一部の人間だけが使えたらいいのでしょうか？

数年前は“Yes.”と答えた人が多かったかもしれませんが、最近の傾向からいうと、“No.”に近くなっています。

5年前に起こった東日本大震災では、世界の数十か国から救援隊が来て、現地で救援活動を日本人とともに行いました。2020年のオリンピックには更に多くの外国人が日本に来るという事実から考えても、日本人にとって英語が必要ないとはいえないのではないのでしょうか。

今の時代ではFacebookやYouTubeといったSNSなどを使えばすぐに簡単に国境を越えることができます。

日本においても英語は「外国語」ではなく「第2言語」になってきていると専門家も指摘をしています。

今までは、「英語」は、1つの主要な大学・高校入試科目として考えられていました。残念なことに、「英語」は「現実のコミュニケーション」のためにはほとんど教えられていませんでした。大学入試センター試験では、「リスニング」と「リ

ーディング」のみが出題され、模擬テストも同じように作られていました。だから、「スピーキング」と「ライティング」は必要ないとされていました。しかし、その試験が変わることになりました。

5月16日付の、朝日新聞は、『文部科学省は16日、大学入試センター試験の後継として、2020年度から導入する新テスト「大学入学共通テスト」(仮称)の実施方針案を公表した。英語は、英検など民間試験で「読む・聞く・話す・書く」の4技能を評価。英検やTOEICなどの民間試験のうち、指導要領に対応し、実施場所の確保、採点の質といった条件を満たす試験を大学入試センターが認定。高3の4～12月に2回まで受けることができる。そのうえで、大学入試センターが作る従来の英語の「読む・聞く」の問題については、①20年度から廃止して民間試験に全面移行する②制度変更の影響に配慮し、23年度まで残す——の2案を提示。6月末までに一つに絞る。

(<http://www.asahi.com/articles/ASK5H7KPZK5HUTIL07F.html>)』と報道しています。ちなみに2020年の入試を受けるのは、中学校3年生の皆さんです。

英語科通信の1号でも述べたとおり、「英語」は、言葉です。「聞いたり」「読んだり」したことを「話したり」「書いたり」できるようになることが大切です。

ちなみに、新聞にも出てきた外部試験の1つである「英検」は、今年から3級以上の級で、「Writing(書く試験のパート)」が新設されました。受験予定者には、対策講座を考えています。